

種 名	増殖方法	成 果	備 考
ノダイオウ	採種して播種する	成果なし	発芽個体が雑種化している
ク ラ ラ	採種して播種する	成果なし	発芽不良
オトギリソウ	採種して播種する	成果なし	発芽後の生育不良
トモエソウ	採種して播種する	元数株から 20 株ほどに増殖	自然増殖を始めた
シムラニンジン	採種して播種する	元数株から 20 株ほどに増殖	近親交配繁殖の心配あり
エキサイゼリ	採種して播種する	新たな 1 群落を形成	湿潤な生育環境の確保が困難
バ ア ソ ブ	採種して播種する	元数株から 20 株ほどに増殖	自然増殖を始めた
ヒメヨモギ	株分けによる	成果なし	株分けの失敗による
フジバカマ	採種して播種する	元 1 株から 20 株ほどに増殖	近親交配繁殖の心配あり

### (3) 植生の遷移停滞を目的とした火入れと刈払い

#### ① 火入れと刈払いによる植生への影響

● 越年植物への影響：共に晩秋から冬季の間に実施され、春期に発芽や出芽する植物に陽光が当たることで、植物の生育に役立っている。その際、火入れでは地表が裸地になるが、刈払いでは越年植物が地表に取り残される点で異なっている。刈払いで取り残された越年植物には、ギシギシ・スイバ・ヤハズエンドウ・オオイヌフグリ・ミゾコウジュ・ハルジョオン・ヒメジョオン・イヌムギ・ネズミムギなど、冬季をロゼットで過ごす植物とイネ科植物が多く、時にこれら越年植物の群落が指定地の一部を覆うことがある。これらの越年植物の多くは春期に発芽や出芽する個体があるので、火入れで焼失したり刈払いで取り除かれても、春期に新たに群落を復活させるので、その後の植生に違いはみられない。

● 植物の生育に必要な土壌塩類への影響：植物の生育に必要な土壌塩類（養分の三要素：窒素・リン・カリウム）は、植物が吸収して植物体構成物質として体内に蓄積される。オギやヨシなどを刈り取って他所に運び出す刈払い作業では、結果として土壌塩類を他所に運び出しているの、仮に土壌塩類の補給なしに刈払いを続けると、生育地の土壌塩類が減少して、やがて植物に発育障害を生じるようになる。火入れ作業では生育地に植物体の灰が残り、この灰に含まれる塩類が再び土壌塩類となる利点がある。

下表に示す指定地 1 m<sup>2</sup>あたりに出来る灰の塩類含有量を、指定地の総面積 41,232 m<sup>2</sup>あたりに換算すると、平均値で窒素全量が 5.57 kg、リン酸全量が 53.23 kg、カリウム全量が 73.85 kg となり、この量は市販の園芸用化学肥料（8：8：8）1 袋 10 kg 入りで約 6650 袋に相当する。

#### 火入れによって指定地 1 m<sup>2</sup>あたりに生じる灰に含まれる塩類の量

（養分の三要素：窒素・リン・カリウムを、N・P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>・K<sub>2</sub>Oに換算）

群 落	窒素全量	リン酸全量	カリウム全量
オギーヨシ群落	0.140 g	1.185 g	2.146 g
つる植物群落	0.129 g	1.396 g	1.437 g
平 均	0.135 g	1.291 g	1.791 g